

「土木広報大賞 2018」応募用紙

団体名：土木・環境しなの技術支援センター

土木広報活動または作品名：パンフレット「信州の土木 魅力のマップ」の発刊と活用の取り組み

広報活動または作品の概要

1 パンフレット「信州の土木 魅力のマップ」の発刊

長野県内の土木遺産、土木建造物の情報発信と地元観光資源としての活用をめざし「信州の土木 魅力のマップ」を発刊している。2018年3月までに3回の改訂を行い、**発刊部数は合計3万5千部**に達している。

マップは片面が土木建造物、災害地、道の駅などを示す地図で、もう片面に土木の分野別歴史的建造物、土木のみどころの案内を編集しており、一般の利用者に見やすい内容を目指している。他には例のないマップであったため、作成時には県内の国機関、県建設部などで構成する検討委員会を設け、**土木関係者が自ら作成**や改訂作業に関わり、**土木をアピール**していく内容を目指している。

2 完成した魅力マップの活用

県内の国、県市町村などの機関で窓口配布するとともに県関係の観光案内所（東京含む）などで一般配布を行っている。

また、土木の魅力を一般に伝えるパネル**展示「信州の土木を発見しよう」**を**長野駅と松本駅**で実施し、来場者にマップを配布した。（松本駅：2016年11月に8日間、長野駅：2017年2月に8日間）

また、県内外の各種イベントで配布も行っており、ドローン撮影の橋の動画放映、オリジナル缶バッジ配布やラジコン重機体験（国交省協力）なども取り入れ、子供から大人まで土木に広く関心をもってもらえるよう取り組んでいる。



*マップ活用イベント（長野駅）

広報活動の効果

1 マップの継続的な発刊を行うことで、取り上げた土木遺産や土木建造物への関心の向上につながっており、マスコミなどにもとりあげられている。

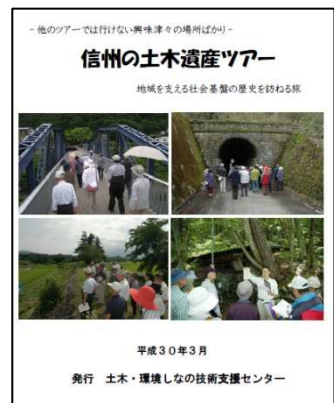
2 市町村の観光パンフレットなどで土木遺産などが掲げられたり、橋など土木建造物を観光資源にする試み（地域の橋カード発行）など、土木の観光資源化に少なからずの影響をもたらしている。



*土木遺産ツアーの案内（上田市、りんどう橋）

3 マップで掲げた県内各地の土木建造物などを訪ねるツアー（平成28,29年度で12回）を実現し、その成果を報告書にまとめ、配布している。

4 長野県庁でも土木や農業施設などを観光に活用する取り組みが開始され、県外在住者からの問合せや他県から同様の取り組みの参考事例としてマップの作成手法などの照会を頂いている。



*新聞でも取り上げられた土木遺産ツアー報告書

付属資料の提出

■あり・□なし（どちらかに印（■）を付けてください。）